

ISAF・ORC 2011年 年次総会 報告

JSAF 国際委員会
オフショア担当
小林 昇

2011年の年次総会は、ISAFが11月3日から13日、ORCは4日から8日まで共にプエルトリコのサンファンで開催された。私は5日夜の到着から10日午後の出発まで滞在しISAF関係委員会の出席・傍聴と、ORCの2つのコンGRESに出席した。JSAFからは植松 眞副会長・国際委員会の大谷たかお・柴沼克巳の各氏と合計4名が出席し、ORCANからは本年も出席がなかった。

6日 ISAF及びORCに参加登録後、挨拶にまわりとORCのメジャメントコミッティーを一部傍聴、午後はISAFの<トレーニング/デベロップメントセミナー>と<エンピリカルハンディキャップサブコミッティー>を傍聴。柴沼委員ともミーティングを持ち情報交換をする。

7日 <スペシャルレギュレーションサブコミッティー>を傍聴する。夜はORCディナーに出席。

8日 ORCのEGM(午前)とAGM(午後)に出席。

夜には、<ロレックスISAFワールドセーラーアワード2011>に出席。

9日 <オセアニックアンドオフショアコミッティー>に委員として出席

10日 午後、大阪に向けて出発

ISAFとORCの会議開催場所が離れていた事もありタイトなスケジュールではあったが、充実した会議への出席となった。以下、傍聴と出席した会議の報告を記す。

<エンピリカルハンディキャップサブコミッティー> -傍聴

各国の独自のハンディキャップシステムを管轄するコミッティーで、NORLYS(ノルウェイ)・LYS(スウェーデン)・PHRF(アメリカ)・RYAポーツマスヤードスティック(英国)・PHRF Argentina(アルゼンチン)・HN(フランス)を主要なハンディキャップシステムとして継続的に扱っている。各国の代表者が委員会のメンバーを占めている。出席各国から自国の状況説明があり、日本の状況を質問され過去にはクルーザーレーティングをIORの時代には全国的に運用していたが現在はIRCを運用していると報告した。

<トレーニング/デベロップメントセミナー> -傍聴

コネクトツーセーリングの一環としてISAFが各国MNAにセーリング普及のためのプログラムを導入させるために力を入れている部門で、幾つかの団体から活発なセーリング普及活動の報告がされた。特に今年から始まったISAFトレーニングスカラシップはセーリングスクールの計画運営からコーチングや安全面、コーチボートの操船等、理論と実技を幅広くプログラムされた約2ヶ月の教習で、日本からは大学生の橋本郷氏が参加したようだ。モノハルだけでなくマルチハルにウインドサーフィンやカイトセーリングのコーチング教習も含まれている。系統立ったセーリング導入のプログラムの提供はJSAFにも必要な事業だと思われる。

<スペシャルレギュレーションサブコミッティー> -傍聴

今年も、多くのサブミッションが出され、これの検討がなされた。2012から2014の期間に移行する時期でもあり、ここ数年継続されてきたPFD(個人浮力装備)やストームセール等もまとまってきた。

判りやすい表現や構成を目指した改訂に関しては、ISAF ウェブサイト上でデジタルならではの表現や検索の容易性等の改良が予定されている。委員からは、近年多くのアイテムに付いて ISO 基準の適用が増加して判りにくい、図版をもっと利用すべき、という意見が出た。

その他、変更・追加事項の詳細はオセアニック・オフショアコミティーの最終決定を受けて別途報告する。

＜オセアニック・オフショアサブコミティー＞ -委員として参加

2つの外洋系サブコミティーを含み、オフショア事項を全般的に統括する機関で、特にスペシャルレギュレーションサブコミティーの討議内容はカウンスルに上げずに最終決定をする重要な委員会である。

ISAFは2000年以降、外洋レースを広く統括する動きを進めてきているが、この間にも幅広い外洋レースの世界の変化と発展が進み、トランサット・ベンディグローブ、ボルボオーシャン等の著名なロングオフショアレースの主権者との合意書がISAFオセアニックコンコーダとして2010年に合意され、昨年12月と本年の6月に情報交換とスケジュール調整の定期会合が持たれた。

同じく昨年に浮上したORC（ORCレーティングの運営）とRORC/UNCL（英国ロイヤルオーシャンレーシングクラブ/仏の協会、IRCの共同運営団体）が将来的に統一ハンディキャップルールを目指すという事項について、はじめての共同声明文書が提示された。ORCは昨年12月の年次総会直前にこの方向性を公表して我々を驚かせたが、IRC側からは正式文書は出されていなかっただけにこの1年の動きは遅いもののこの声明によって確実にレーティングルールと運用機関を統一する方向性が確認された。一年以内に2つのルールを共に扱う機関（ジョイントベンチャーと表現されている）を発足させ、統一ルールはその後検討されるという内容である。世界統一ルールの制定は世界中の外洋セーラーにとって望ましい姿であるが、その理想の実現への道程は未だ厳しい感もある。

その他は、

- ・ SOTO クラス協会がリコガナイズドクラスとして承認された。
- ・ ORCとIRCからの2011年の報告があり、ORCの証書発行数は僅かながら伸長し、IRCは横這いという状況であった。
- ・ USセーリングから、シカゴでのレースでKiwi35というハイキングボードを大きく張りだした艇が荒天で180度の転覆をして2名が亡くなるという事故の報告があり、スタビリティインデックスの計算上過大に復元力があるように算出され、大変危険であるとの報告がされた。

＜ORCコンGRES＞ -コンGRESとして植松副会長と共に参加

ISAFと並行して、ORCのテクニカルコミティーを中心とした各委員会が開催される。ORCの各委員会を終了した後に、8日朝から各国のコンGRESだけのミーティングがあり（EGM）、その午後にオープンのAGM（年次ゼネラルミーティング）が開催された。

ORCの2010年の状況は、5つの大陸と33の国で各国レーティングオフィスにより運用され、その機能を持たない国（韓国等）へはORCが直接証書を発行している。それらの国を合わせると42カ国となる。主要な国はスペイン、ドイツ、ギリシャ、イタリーとドイツで、これらの国で71%を占めている。地中海と北ヨーロッパがやはり中心で、アメリカは遂に0となってしまった。証書発行総数では昨年実績を上回り、財務状況も健全である。

その他では、

- ・ 2011年の日本での証書発行数が62と減少した（昨年は100）。本年は我が国でORCのレースが開催されなかった事を考えると、それでも60を維持している事になる。減少は今後も続くと思われるが、ORCANの富田氏は＜ORCのルールは科学的でより公正な艇の性能評価が出来る。ORCANの各担当者もこの点を評価して業務を続けている。今以上に証書の発行数が減少してもサービスは続ける＞とのコメント

をフィンチ会長に伝えて下さい、という事であったので伝言をしてきた。フィンチ会長は ORC として日本に援助すべき事があれば申し出て欲しい、というコメントがあった

- ・ 現在、植松副会長と私の 2 名がコンGRES となっているが共に 2012 までの任期である事を確認した。その後は、証書発行数の減少で 1 名となる可能性が高い。
- ・ 役員の変更があり、フィンチ会長、シニョリ計測委員長、ビビアン秘書が以後 2 年任期で再任された。
- ・ テクニカルコミッティーによる VPP の見直しは大きな変化は無く、レーサーは殆ど影響を受けない。一方、プロダクション艇は影響を比較的大きく受けているようだ。
- ・ GP クラスとして、GP-26、GP-33 及び GP-42 の 3 クラスを、IOR ルール時代に隆盛を極めたトンカップレースのように、修正時間で競わないレースを促進しようとされたが、本場の地中海でも本年はこれらのクラスレースは開催されず、GP-26 が南米で僅かにアクティブである、との事。一昨年まで少数ながらヨーロッパでサーキットを行っていた GP-42 クラス艇も多くは日本の〈Swing〉のように IRC に適合するように改造されてレース活動をしている。と報告された。
- ・ 韓国から、1 名の参加がありレーティングオフィス運営の勉強に来たとの事であった。福岡のオーガナイザーが釜山レースで IRC を採用している事から、韓国にも数艇の IRC を取得している艇があるが、ORC を取得している艇数が上回っている。ソウルの KSAF と釜山の外洋団体の協調性の問題もあるようだが、日韓の外洋艇交流の面では統一ルールの使用が望ましいと思われる。こんな面でも世界統一ルールの実現が待たれる。

その他：

- ・ <ロレックスワールドセーラーアワード 2011> は男性からは、フォーティナイナーのメダリストで世界一周レースにも実績を上げているスペインの Iker Martinez Lizarduy と Xabier Fernandez のコンビが、女性ではアメリカのマッチレーサーである Anna Tunnicliffe が受賞した。男性受賞者はボルボオーシャンレースに出場中で欠席であった。
- ・ シーボニアヨットクラブでブラインドセーラーの世界選手権が開催されるが、この件で IFDS (International Association For Disabled Sailing) の役員と会談する機会があった。

以 上